

【2022年】関東臨床工学技士会協議会合同災害時情報伝達訓練 訓練想定（茨城県用）

1. 目的

- 1) 各施設から日本透析医会災害時情報ネットワークへの入力訓練とする。
- 2) 関東(1都6県)の災害時情報伝達訓練を通し、広域災害が発生した際の情報伝達について7都県の連携を評価し問題点などを確認する。
- 3) 日本透析医会災害時情報ネットワークなど情報共有ツールを活用し、各都県との連携を深める。

2. 訓練概要

1) 日時：2022年9月1日（木）9時～2日（金）17時

※ 実際の災害発生などにより、訓練の中止や日程の変更などが生じる場合がございますので予めご了承くださいませようお願い致します。

- 2) 対象：群馬県・栃木県・神奈川県・埼玉県・東京都・茨城県・千葉県
- 3) 災害対策本部：千葉県臨床工学技士会（後方支援：東京都臨床工学技士会）

3. 災害想定

2022年9月1日（木）未明、都心南部直下においてM7.3の地震が発生した。図に示す震度分布では震度6強以上であった地域の施設は、ライフラインの寸断により透析が不可能な状況となる。

インフラ・ライフライン等の被害と様相

- 1) 電力：発災直後は約5割の地域で停電。1週間以上不安定な状況が続く。
- 2) 通信：固定電話・携帯電話とも、通信が集中したためメールは遅れが生じる可能性。
- 3) 上下水道：都区部で約5割が断水。約1割で下水道の使用ができない。
- 4) 交通：地下鉄は1週間、私鉄・在来線は1か月程度、開通までに時間を要する可能性。
主要路線の道路では、少なくとも1～2日を要する。一般道はガレキによる狭小、放置車両等の発生で深刻な交通麻痺が発生。
- 5) 燃料：非常用発電用の重油を含め、軽油、ガソリン等の消費者への供給が困難となる。

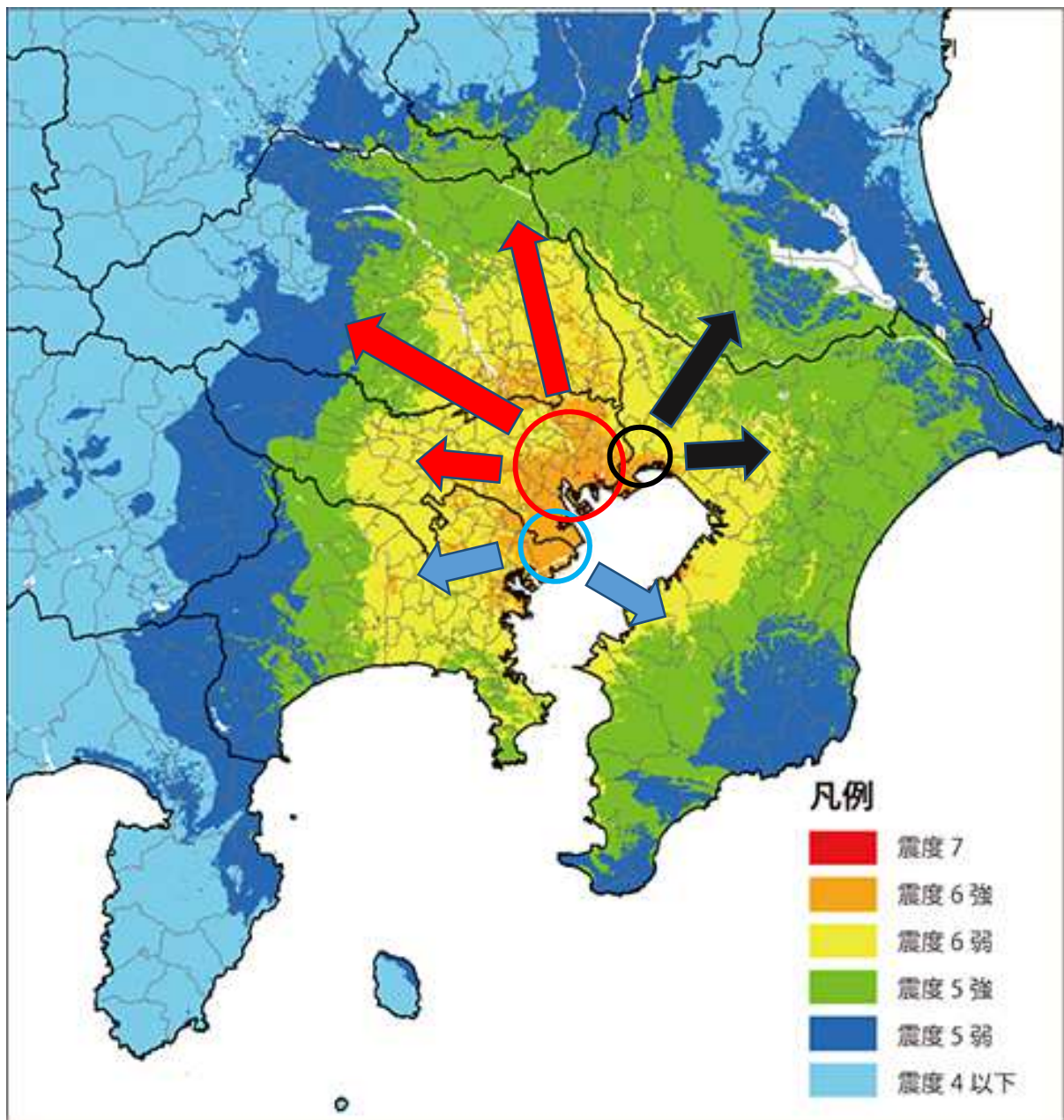


図 震度分布（都心南部直下地震）

被害想定 抜粋引用：内閣府「首都直下地震の被害想定と対策について（最終報告）」
https://www.bousai.go.jp/jishin/syuto/taisaku_wg/pdf/syuto_wg_report.pdf

3. 関東臨床工学技士会協議会の動き

- 1) 東京都は、都心の施設が透析不能となり、被害の少ない多摩地区に可能な限り振替を行う。しかし、患者数が多く受け入れが困難な状況となる。そのため、埼玉県、群馬県、栃木県へ振分けを行う。
- 2) 神奈川県は、川崎市と横浜市の海岸部での施設が透析不可能な状態となり、県西部での受け入れを可能な限り行う。西部での受け入れが困難となる場合には、アクアラインが通行可能な場合、千葉県への受け入れ要請も視野に入れる。
- 3) 千葉県は、西部沿岸部の施設が透析不能となり、中央から南東部へ可能な限り振替を行う。神奈川県から受け入れが必要な場合、南部で受け入れが困難となるため茨城県へ振分けを行う。

4. 訓練の流れ

9月1日

午前 (9:00~12:00)

震度6強以上であった地域の施設は、自施設の被災状況を分析するとともに、近隣施設の被災状況の把握に努める。被災により、一般道は瓦礫による狭小、放置車両等の発生で深刻な交通麻痺が発生していることを考慮し、患者、職員が参集可能なのかも分析対象とする。その後、**災害情報ネットワークに自施設の状況を発信する。**

各都県の災害対策本部は、該当する県の情報を集約し千葉県災害対策本部に情報共有する。

午後 (13:00~16:00)

東京、神奈川、埼玉、千葉が被災し甚大な被害が発生していることを想定し、千葉県災害対策本部は、各都県の支援ならびに受援の状況の把握を行う。また、甚大な被害があった地域では、近隣施設との独自のマッチングが困難な場合も想定されるため、千葉県災害対策本部が各都県と情報共有し検討を行う。千葉県災害対策本部は、各都県に支援透析を依頼する方向で動いていることを各災害対策担当者にメールにより情報共有を図る。

9月2日

午前 (9:00~11:30)

発生当日のマッチングの結果を共有し、広域搬送も視野に入れた検討を各都県の災害対策担当者ともメールにより検討する。

17:00 訓練終了

※災害時情報伝達訓練振り返りの会を後日 Zoom により行う。

茨城県 各施設様

※ 訓練の想定としては千葉県より多数の受け入れ要請があるかと思われますので**茨城県の各施設からは受け入れ可能人数（訓練上の）を入力頂けると幸甚でございます。**災害情報ネットワークへ自施設の状況を入力頂ければ訓練は終了です。そのほか集計等については災害対策委員会の方で対応致します。ご参加のほど何卒宜しくお願い致します。